

□議員名：河野朋子

1 行政改革大綱の見直しとアクションプランの策定について

論点	行政改革大綱の見直しとアクションプランの策定、どちらも本来なら平成23年か24年にはすべきだったが、なぜ遅れたのか。
回答	遅れた理由としては、内部の調整ができなかったというのが一番の原因である。期間においては約2年程度遅れているのも事実である。

論点	「その取り組み状況は、審議会に報告し結果を毎年度公表する」とあるが、実際に検証して審議会を開いて報告し結果を公表したのか。
回答	これまではしていないので、これまでの反省を踏まえて、今年度内に作成した折には、大綱に基づく検証等含めて、公表していきたいと考えている。

論点	現在は数値目標とその達成度がなく、進捗状況が全く見えない。数値目標を掲げ、行革の見える化を進めてほしい。
回答	今からこのアクションプラン等含めて策定する段階なので、そういう意見があったということはしっかり受け止めたい。

2 組織機構の見直しについて

論点	市長は1、2年で課長クラスの異動をしているようだが、1、2年で変えるメリットは。
回答	大体半年たって、向かないなという課長も出てくる。部長も出てくる。その部長や課長にさらに1年、2年いてもらうというメリットはない。適材適所、これを心得た適切な人事を忘れてはならない。

論点	厚狭複合施設のワークショップでは、これまで関わった職員のほとんどが異動で代わり、説明会では市民から不満の声が出ているが。
回答	行政は継続性が一番で、人が変わっても引き継ぎを十分行って対応するという前提でやっているが、確かに説明会では初めてのメンバーがずらりと並んで、市民から不信感があったかもしれない。総務部長の「詰めが甘かった」という発言の通りである。

論点	1つの事業に取り組む時など、せめて毎年の異動はせずに、3年ぐらい腰を落ち着けて仕事に取り組めるような方針にできないか。
回答	そのようにすると、職員が2倍は必要になる。それは、行財政改革の基本的な精神に反している。

論点	藤枝市の市長は「人財育成で大切なことは」との質問に「職員を信頼し権限を委譲して任せることが大事」と答えているが、どうか。
回答	権限の移譲については、それにふさわしい市の体力、それをつける必要があるというのがまず先である。そこをまず比較した上で、山陽小野田市での議場で発言してほしい。

論点	現在副市長の席は空席になっているが、これも今回の組織機構の見直しに含まれるのか。
回答	私は前提として他の市長と随分違う。まず公正公平である。そして市民の人権を基本的に大切するというのが私の精神で、それについてくる副市長はなかなかいない。しかし、必ずいるということで、今選考中である。